

一 層 の 活 動 を

奈良大学学長 水 津 一 朗

奈良大学に情報処理センターが発足して、早や2年6ヵ月がたちました。システム設計から、運転までセンター職員のたゆまない努力により今日を迎えるに至りました。関係者一同のご苦勞は並大抵のものではなかったと思われます。ここに改めて感謝の意を表するとともに、敬意を払いたいと思ひます。

当センターは文科系大学としては、比較的規模の大きいコンピューターを選び、周辺機器もいろいろ備え、システムとして最良のものを設置することが出来ました。また、このようなセンターでの教育を期待している学生も少なくないと聞いています。それだけにセンターの役割も本学にとって決して小さいものではありません。センター職員のご苦勞もさることながら、さらにセンターの門扉を拓げ、全ての教職員、学生にとってますます身近な自分たちのセンターになるように、またセンターの活動も一層多方面にわたるように積極的な工夫をお願いしたいと思ひます。

コンピューターが開発されて、まだ40有余年、今や科学技術の分野にとどまらず、社会全体や日常生活にも様々な影響を与えています。マイクロプロセッサーに至っては、紀元2000年には、一人当たりにして2000個を使用しなければ、生活が出来ないという予測もあります。つまり、現在の「ネジ並み」に普及すると思われます。これに対応するためには、情報処理の基礎事項、その利用についての基本的理解と応用能力が、今後ますます重要となり、この領域において、大学教育の占める比重は、さらに増大するものと思われます。

このたび、「センター年報」を発行してセンターの業務、情報処理の基礎事項、技術開発等についてまとめ、本学の年輪をさらにはっきりと刻んでいくことは時宜を得た企画と思われます。

今後、本学の学術研究ならびに教育に対し、センターが一層活潑に利用され、業績のあがることを心から願ひ、発刊の挨拶といたします。

平成2年12月